

安定した通信環境が支える、 オンライン英会話を活用した コミュニケーション重視の英語教育

— 宇部市教育委員会

目的

- 生徒が英会話に取り組める機会を増やしたい
- ネットワークトラブルによる英会話中断を解消したい
- 知識習得だけでなく体験を伴った学びを与えたい

アプローチ

- タブレットを用いて、3人に一人のオンライン英会話講師を配置
- LTEネットワークを採用し25分間途切れることのない英語コミュニケーションを実現
- 日常的にタブレットを使うことで、新しいことに対する意欲が向上

LTEタブレットを導入し、オンライン英会話の通信トラブルを改善

英語教育とICT教育を推進する山口県宇部市は、オンライン英会話で発生していた通信トラブルの改善をめざして、2018年度からLTEタブレットを導入しました。同市は、安定的につながる環境をベースに、生徒たちが意欲を持って英会話に取り組める環境を整備。コミュニケーションの大切さが実感できる英語教育が実践されています。

オンライン英会話で、より多くのネイティブ講師と学べる環境に

宇部市教育委員会 指導主事の大山裕子氏は英語教育について、「予算面でALTの確保がむずかしく課題になっていました。そこで、**オンライン英会話を導入し、コストを抑えながら、ネイティブ講師とより多く話すことのできる環境を整備しました**」と語っています。

ところが、Wi-Fiモデルのタブレットでオンライン英会話をやり始めたはいいものの、今度は「音声が切れる」、「映像が遮断される」など、つながりにくいことが課題になりました。宇部市教育委員会 学校ICT専門コーディネーターの村上珠枝氏は「**子供たちがせつかく英語で話そうとしても、通信トラブルが原因で会話が止まってしまうことが多く、意欲が削がれてしまうことがありました**。この状況を改善したいと考え、ドコモのLTEタブレットを中学校に120台、小学校に50台を導入しました」と語ってくれました。**ドコモであれば、安定してつながるうえに、学校へのタブレット導入の実績も豊富であったことが良かった**といいます。



村上珠枝氏 大山裕子氏

宇部市教育委員会

宇部市港町1-11-30

URL : <http://www.city.ube.yamaguchi.jp/>

山口県宇部市は、小学校が24校、中学校は12校あり、英語教育とICT教育を重視した教育施策を進めています。英語教育では学力向上をめざすとともに、4技能（聞く、話す、読む、書く）を伸ばすツールとしてICTに着目し、2014年度から全小中学校を対象にWi-Fiモデルのタブレットを2000台導入しました。ちょうど、コンピュータ教室のパソコンが更新を迎えたタイミングであったことや、ALT（外国語指導助手）の代わりにオンライン英会話の導入を検討し始めたことが、ICT環境整備の背景にあります。



[取材協力] 宇部市立厚東川中学校

“コミュニケーション”を意識した英語学習を実現



学ぶフレーズについて準備し、実際に通じるかどうかチャレンジ

宇部市立厚東川中学校は、英語教育推進校・ICT教育推進校として、宇部市のなかでも重点的にLTEタブレットが整備された学校です。同校では、中学1年生から3年生までオンライン英会話を導入し、生徒たちの「話す・聞く」能力の向上に取り組んでいます。

オンライン英会話のある授業では、いきなりネイティブ講師とのスピーキングから始まるのではなく、最初の15分間は本時に学ぶフレーズを確認したり、2人1組になって会話の流れを練習したりと準備時間が設けられています。その後、生徒たちは3人1組になって専用のサイトにアクセスし、オンライン英会話のレッスンを始めます。タブレットを通して、ネイティブ講師とリアルタイムでつながり、先ほど練習したフレーズが通じるかどうか、実際に試していきます。

指導が分散しない分、コミュニケーションを意識した英語が学べる

オンライン英会話では、生徒3人に対して、一人のネイティブ講師が配置されているのがメリットです。生徒の会話量も圧倒的に増え、3人で助け合いながら会話をつなげようと協力する姿も見られました。ALTが一人で大勢の生徒を教えるのと違い、生徒たちは25分間、ネイティブ講師とのコミュニケーションを意識した英語が学んでいるといえます。

授業を担当した宮本勝実教諭は「Wi-Fiのタブレットを使っている時は、上手くつながらない時があり、その時は他のグループに移動してもらうよう対処していました。しかし、今は全く途切れることもないので、生徒たちは集中して取り組んでいると思います」と語っています。



ICTを活用し、実体験をともなう学びを作りたい

このようなオンライン英会話の授業について、生徒はどう思っているのでしょうか。ある女子生徒は「25分間ずっと英語を使わなければならない状況になるので、なんとかして英語でコミュニケーションを取ろうと思うようになりました。自分でも発音が良くなったと思いますし、相手に伝わるようにジェスチャーを使うなど工夫しています」と語ってくれました。

宮本教諭は「オンライン英会話は、相手の顔をしっかり見ることで、表情を意識して英語を話すようになるのが良いと思います。英語はコミュニケーションツールなので、今まででもそうした部分を教えたかったのですが、ALTの場合は個々に対する指導が十分にできませんでした」と話しています。実際に、英検IBAの結果でも聞く・話す能力が伸びているといいます。

タブレットを活かして、生徒の世界を広げる

厚東川中学校の上田勝彦校長は、こうした取り組み全般について「ICTを活用することで、生徒たちには体験を伴った学びを与えていきたいです」と語ってくれました。ICTは新たな学びの機会を作ることができるツールであり、生徒たちには実体験を重視した活動を今後も増やしていきたいというのです。上田校長は「タブレットを使うようになってから、生徒たちは新しいものに対する抵抗感が減ったように感じます。日常的にICTを使うことで、新しいことを受け入れようとする姿も見られるのが良いですね」と話してくれました。生徒の世界を広げるツールとしても、タブレットが活かされています。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/

